

中遠地域の農業・林業の話題をお届けします！



きらり中遠 ホットニュース

静岡県中遠農林事務所

令和5年3月30日 発行（第4号）

「今やらねば！！セミナー」を開催しました

（企画経営課）

当所では、毎年度、茶業経営体支援プロジェクト「今やらねば！！セミナー」を開催しています。

今年度は、1月18日に、肥料価格高騰対策として「堆肥の活用推進」をテーマとし、茶農家と畜産農家が堆肥利用の課題を話し合う勉強会を開催しました。

「茶園での堆肥散布による影響」について、県農林技術研究所茶業研究センターの内山道春主任から講義を受けるとともに、「堆肥散布事例紹介」として、異なる堆肥を活用している2人の茶生産者（山本製茶 山本浩三氏、丸尾製茶 丸尾雅昭氏）から、活用方法を紹介していただきました。

また、当日は会場に堆肥を展示して来場者に見学してもらい、マッチングを行いました。

当所は今後も、耕畜連携を進めるとともに、管内茶生産者を支援していきます。



事例紹介



堆肥の展示

第28回JA遠州中央茶振興大会が開催されました

（企画経営課）

3月2日、JA遠州中央袋井南部店にて、第28回JA遠州中央茶振興大会が3年ぶりに集会形式で開催され、JA茶業部会の関係者約50人が出席しました。

大会では表彰式が行われ、荒茶荷口品評会普通煎茶の部で最優秀賞となった袋井市の竹原秀哉氏に佐藤中遠農林事務所長より、県知事賞が授与されました。

また、令和6年には浜松市で全国茶品評会の開催が内定しており、大石茶業部会委員長及び鈴木JA経営管理委員会会長より茶生産者へ出品を呼びか



県知事賞の授与

けられました。

当所は今後も、管内茶生産者の経営安定や産地振興を支援していきます。

社会保険労務士の専門家派遣を実施しました

(企画経営課)

2月10日に、農業経営に関する課題解決支援のため、袋井市の水稻経営体へ社会保険労務士を派遣しました。

派遣先の経営体は、経理や労務管理等の事務を独学で習得し、1年前に法人化しました。しかし、雇用者の労務管理に不安を感じ、当所へ相談があったため、今回、専門家派遣事業を活用して、就業規則の見直しを検討することとしました。

その結果、育児・介護休業の考え方やサービス規則についても内容の充実等について助言が得られ、代表者の不安が払拭されました。

当所では、農業者の経営課題を解決するため、引き続き専門家を活用し、支援をしていきます。



中遠農業マネジメント講座を開催しました

(生産振興課)

当所では、意欲ある農業経営者を支援するため、経営の理念や戦略等を体系的に学ぶ講座を6回シリーズで開催しました。

最終回の1月17日には、磐田市民文化会館「かたりあ」を会場とし、受講生の5経営体が、講座を通じて作成した経営改革計画を発表しました。

最後に、講師の藤田浩嗣氏（中小企業診断士）から1人ひとりに講評とエールをいただき、当所農業振興部長から経営理念書を授与しました。

当所では、今後も経営の発展や拡大意向のある農業者を支援していきます。



農山漁村ときめき女性 食農体験教室を開催しました

(生産振興課)

1月13日に掛川市生涯学習センターで中遠地域農山漁村ときめき女性連絡会食農体験教室を開催し、8人のときめき女性が参加しました。

「日本の食文化を学ぶ」をテーマとし、こんにゃくをこんにゃく芋からと、市販のこんにゃくの素（粉）から作って、色味や調理手順の違いを比べながら調理法を学びました。

会員からは、こんにゃくの調理法について学びが多かった、次世代に伝えていきたいとの意見がありました。

当所では今後もときめき女性の活動を支援していきます。



新規就農現地見学会を開催しました

(生産振興課)

2月12日に、磐田市と掛川市の生産ほ場を見学先として「新規就農現地見学会」が開催され、青年農業者等育成センターの引率により、就農に関心を持つ14人が参加しました。

JA遠州中央担当者から地域の農業概要や地理的条件の説明を受けた後、バスで移動し、遠中農園（露地野菜）、農業屋（トマト）、渡邊農園（イチゴ）の3ヶ所を見学しました。

参加者からは、「見学した作物の収益性がわかる資料が欲しい」、「労働時間や生活に余裕はあるのか?」、「施設園芸を行う場合の初期投資がかなり高額で心配」といった意見が出されました。

今後、就農を目指して「がんばる新農業人支援事業」等により技術習得研修へ進む希望者には、関係機関と連携し青年等就農計画の作成を支援していきます。



袋井市今井地区で「地区農業推進委員会」が開催されました

(生産振興課)

2月3日に、JA遠州中央袋井北支店において「袋井市地区農業推進委員会（人・農地プラン会議）」が開催されました。

袋井市の人・農地プランの実質化の地区としては「今井地区」になります。

同地区は袋井市の「モデル地区」の一つとなっており、農業委員会としても目標地図（案）作成に力を入れています。

袋井市役所から「経営所得安定対策」の取組の説明の後、会長他2人の農業委員の指導の下、今井地区内の各部農会ごとに地図を用意し、部農会長が農業委員他生産者と話をしながら担い手の耕作意向により地図の色塗りを行いました。

2月3日を皮切りに、2月6日「袋井東地区」、2月7日「山梨・宇刈地区」、2月8日「袋井南、西地区」と「袋井北地区」、2月9日「三川地区」と「笠原地区（モデル地区）」、2月10日「浅羽地区」という日程で「地区農業推進委員会（人・農地プラン会議）」を開催します。

農林事務所としては、目標地図作成に熱心な袋井市の取組を支援するとともに、同地区の取組を管内他市町に情報共有していく予定です。



農業委員が農地利用の考え方を示して進めています。

中遠地域農地活用連絡会「磐田市検討会」を開催しました

(生産振興課)

2月21日に、中遠総合庁舎の会議室を会場に「平成4年度第2回中遠地域農地活用連絡会 磐田市検討会」を開催しました。

磐田市は、県内でも農地の集積・集約化の取組が盛んな土地柄であり、農地バンク事業の推進と「目標地図」作成を主題に検討会を行いました。

磐田市内では令和5年度以降も「農地利用集積円滑化事業」の満期を迎える農地が多数あり、農林、市、JA、公社が協力して「農地バンク事業」に切り替えていきます。

一方、基盤強化促進法による市の利用権についても満期を迎える農地が多く、利用権よりも事務手続きが煩雑な「農地バンク事業」に切り替えてもらうか検討していく予定です。

この取組をまとめて、管内の4市1町での取組にも活かしていく予定です。



水田由来の温室効果ガス削減効果を調べています

(生産振興課)

温室効果ガスのメタンは、水田では夏季の湛水条件下でワラ等の有機物が分解することにより発生しますが、秋冬期にワラをすき込むことで減少が見込まれます。

そこで、静岡県では「水田温室効果ガス削減対策事業」として県内4カ所で有機物の腐熟を促す試験を計画し、うち当所管内では、袋井市の水田で実施しました。

1月24日に、今年度最終の調査として、ワラの腐熟促進剤散布の分解状況を調べるため、土壌採取を実施しました。



今後は調査結果をまとめ、中遠稲作研究会等に情報提供するとともに、管内で「秋耕」の取組が盛んになるよう、支援していきます。

第27回JA遠州夢咲いちご委員会果実品評会が開催されました

(生産振興課)

2月3日に、JA遠州夢咲営農会議室にて、第27回JA遠州夢咲いちご委員会果実品評会が開催されました。

審査は、市場関係者2人、JA静岡経済連2人、農林事務所2人の計6人で行いました。審査には紅ほっぺ35点、きらび香1点、章姫2点の計38点が出品され、外観や内容によって評価しました。今作は、秋期に気温が下がらず花芽分化が遅れたため、いちご栽培には難しい気象条件でしたが、生産者の努力によって素晴らしいいちごが揃っており、若干の差が評価を分けることとなりました。

審査の結果、優秀賞及び金賞1点、銀賞2点、銅賞4点が選出されました。また、糖度賞の審査とビッグベリーコンテストも行われ、それぞれ1点、5点が選出されました。

今後も当所はいちご生産者を支援していきます。



業務改善活動成果を報告しました

(家畜衛生課)

2月15日に静岡総合庁舎で、経営管理部行政経営課主催の業務改善活動成果報告会が開催されました。

報告会では文書課、藤枝財務事務所、埋蔵文化財センター、中遠農林事務所家畜衛生課が報告を行いました。

業務改善活動は現場の職員の意見をベースに、専門家のアドバイスを受け、職場全体で改善に取り組むものです。

当所家畜衛生課は、今年度この活動に参加し、1年間改善に取り組んできました。

活動メンバーを選定し、ワークショップを重ね、ありたい姿(目的)を実現可能にするための課題と具体的な改善策を検討、実行しました。

当課では、「特定家畜伝染病被害の拡大防止」を目的、執務・作業環境の整備と防疫関連業務の適正化を課題として、検査棟や執務室、防疫資材庫等の整理整頓を行い、防疫計画作成の阻害要因の分析と必要なアクションを実施計画書に整理しました。

活動を通じて、メンバーからは、長年の問題についていろいろな角度から考える良い機会だった、といった、参加して良かった、との声が聞かれました。

改善策には中長期で取り組む内容もあり、今後も活動を継続していきます。

【美農里】いまい保全の会「田んぼの楽校」「畑の楽校」 今井小学校で収穫祭が行われました

(農村整備課)

美農里の活動組織「いまい保全の会」(袋井市)が今井小学校と連携して実施している「田んぼの楽校」と「畑の楽校」において、2月に収穫祭が行われました。

2月10日は、米作りに取り組んだ5年生が、収穫した米を使って、おにぎり・味噌汁づくり、餅つきを行い、いまい保全の会の方々と一緒に土地の恵みを頂きました。子供達から「いまい保全の会」の方へ感謝の言葉が伝えられ、「自分たちで作った米は最高!」と満面の笑みでおにぎりを頬張る子供達の姿が印象的でした。

2月17日は、大豆作りに取り組んだ3年生が、いまい保全の会の方々と一緒に、きな粉作りと豆腐づくりを行いました。

ほとんどの子供がきな粉を作るのは始めて。保全の会の方にすりこぎの使い方の手ほどきを受け、慣れない手つきながら、炒った大豆を一生懸命すってはふるいにかけ、細かくしていきました。教室中に香ばしいきな粉の香りが充満し、「いいにおい〜」「おながすく〜」と楽しく作業を行いました。

美農里の活動では、小学校との連携の中で、子供が地域の方々と接することで、農業や地域を身近に感じてもらい、これらを通して、将来の担い手である子供達に農業農村の大切さを伝えていきます。

当所は、美農里の活動を支援しています。

※美農里とは、「ふじのくに美農里プロジェクト」のことで、静岡県で実施する「多面的機能支払交付金」で行う活動の愛称です。

※「いまい保全の会」は、平成19年から美農里活動により、農地・農業施設の保全管理や地域の環境保全活動を実践しており、「畑の楽校」「田んぼの楽校」等、地域・学校と連携し地域に根差した活動を行っています。



成果発表

餅つき

お米上手にとげるかな?

おにぎりできた!



発 行：静岡県中遠農林事務所

〒438-8558 静岡県磐田市見付 3599 番 4 号 電話 0538-37-2272 (企画経営課)

E-Mail : nourin-chuen-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp

U R L : <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-760/>